利休随一の弟子
三斎 細川忠興
矢部誠一郎 著
四六判 並製 208頁　定価 1、800円（＋税）
発売元 宮帯出版社

54万石の大大名である一方、千利休の教えを忠実に受け継ぎ、武家茶の湯を確立した細川忠興の茶人としての側面を解き明かす。



読売新聞で書評が掲載されました！

評・前田 英樹（批評家 立教大教授）

利休随一の弟子 三斎 細川忠興

矢部誠一郎著

長い戦国期を潜り抜けて開花した桃山文化は、華やぎと簡素、細みと剛健とが独特に綯い合わさり、空前絶後の価値を産み出した領域が少なくない。本書は、戦国大名細川忠興を「武家茶の完成者」として、入念な文献渉猟によって浮き彫りにしている。

忠興は、同時代の高名な茶人といつも並び称されたが、その理由や内実は一向に明らかではない。古田織部の大胆な歪み、小堀遠州の伸びやかな「綺麗寂び」、金森宗和の公家風な明るさに比べて、忠興には利休の「侘び・寂び」を頑固に守り通す以外の特徴がない。そう評されてきた。忠興の茶のどこが優れていたのか。

矢部氏の答え方には、なるほどと感じ入った。信長の時代から徳川三代の世まで、戦国武将の誇りと重責に生き抜いた忠興にとって、茶の湯による名誉、名声などは、あらゆる関心の外であった。二十歳代後半で、利休から直接受け取った茶の湯から、忠興は武士として学ぶべき一切を吸い上げたのだ。そこから生まれる清冽な高潔さ、人格の奥行き——時代を唸らせる武家茶の本領がそこにあった。

（宮帯出版社、1800円）

【読売新聞 2015年4月5日 掲載】

利休随一の弟子
三斎 細川忠興
矢部誠一郎 著
四六判 並製 208頁　定価 1、800円（＋税）
発売元 宮帯出版社

54万石の大大名である一方、千利休の教えを忠実に受け継ぎ、武家茶の湯を確立した細川忠興の茶人としての側面を解き明かす。



読売新聞で書評が掲載されました！

評・前田 英樹（批評家 立教大教授）

利休随一の弟子 三斎 細川忠興

矢部誠一郎著

長い戦国期を潜り抜けて開花した桃山文化は、華やぎと簡素、細みと剛健とが独特に綯い合わさり、空前絶後の価値を産み出した領域が少なくない。本書は、戦国大名細川忠興を「武家茶の完成者」として、入念な文献渉猟によって浮き彫りにしている。

忠興は、同時代の高名な茶人といつも並び称されたが、その理由や内実は一向に明らかではない。古田織部の大胆な歪み、小堀遠州の伸びやかな「綺麗寂び」、金森宗和の公家風な明るさに比べて、忠興には利休の「侘び・寂び」を頑固に守り通す以外の特徴がない。そう評されてきた。忠興の茶のどこが優れていたのか。

矢部氏の答え方には、なるほどと感じ入った。信長の時代から徳川三代の世まで、戦国武将の誇りと重責に生き抜いた忠興にとって、茶の湯による名誉、名声などは、あらゆる関心の外であった。二十歳代後半で、利休から直接受け取った茶の湯から、忠興は武士として学ぶべき一切を吸い上げたのだ。そこから生まれる清冽な高潔さ、人格の奥行き——時代を唸らせる武家茶の本領がそこにあった。

（宮帯出版社、1800円）

【読売新聞 2015年4月5日 掲載】